

平成29年度 第1回 総合教育会議 議事録

1 日時 平成30年2月23日（金）午後2時30分から午後4時00分

2 場所 役場庁舎分館2階第1会議室

3 構成員

長南町 町長 平野 貞夫

長南町教育委員会

教育長 小高 憲二

教育長職務代理者 風戸 正敏

教育委員 中村 尚子

教育委員 金木 武信

教育委員 星野 悟

4 事務局等

教育委員会

学校教育課長 浅生 博之

学校教育課主幹 佐藤 功

生涯学習課長 岩崎 利之

生涯学習課主幹 中村 義貞

開会

<浅生課長>

ただ今から平成29年度第1回総合教育会議を開催いたします。はじめに町長より挨拶をお願いいたします。

町長あいさつ

<平野町長>

みなさん、こんにちは。

開会にあたりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

本日はお忙しい中、総合教育会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。

本会議は、町長と教育委員の皆さんが円滑に意思疎通を図り、本町教育の課題及び目指す姿等を共有しながら、同じ方向性のもと、連携して効果的に教育行政を推進していくための会議でございます。本日は、平成30年度の教育の方針等について、教育長より説明がありますので、それに対する意見交換やご協議いただければ幸いです。本会が、長南町の教育行政のさらなる充実・発展に資することに期待をいたしまして、開会に際しましての挨拶とさせていただきます。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

<浅生課長>

では、3番の議事に入らせていただきます。教育委員会運営要綱の規定に基づきまして、町長に議長をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

<平野町長>

それでは平成30年度教育の推進について、お願いいたします。

<小高教育長>

いよいよこれからは、本町の教育の大事な時期だと考えておりますので、そういう面でご理解いただき、ご指導いただきたいと思います。

まず、現代的な社会課題への認識とありますが、まず今の社会的な課題を我々が共有する必要があるだろうということです。それらを踏まえて学校教育も進まなくてはいけない時代だろうと、3つの観点から基本を考えています。1つは「地域の行政課題を踏まえた教育行政推進への問い」です。今までは、学校は文科省の指導要領でよかったのですが、子どもがいなくなるという状況の中、学校存立の危機という認識を持った経営をしなくてはならない時代だろうと考えます。地域の課題に寄与できる学校経営、教育行政が必要だろうということで、それを踏まえて昨年度から5か年計画を出ささせていただき、今年が1年目ということです。

2つ目ですが、今までは学校にお任せの教育だったのですが、これからは課題を学校と共に解決する経営が必要な時代だろうという認識です。その連携をどう図るかが課題となるわけですが、学校と連携を密にした教育行政を進める意味で、システム化ということを考えています。一つは効率を重視した学校教育、教育行政が必要だろうということです。また、管理職がここ3年くらいで大きく代わってしまいます。短い期間で学校経営を行う校長先生、教頭先生方を何らかの形でサポートするシステムを作っていく必要があるだろうと考え、教育委員会が学校にどのように関わっていったらいいのかという問いです。

3つ目は、少なくなった子どもを地域全体で育てるという教育風土というものをどのように作っていくか、つまり、長南らしい個性的なカリキュラムをどう作っていくかということです。

これらを踏まえて、30年度に向かっていきたいと考えています。

子どもたちの状況です。来年は小学校が2人、中学校が16人減ります。H31は小学校入学が21名で1クラスになりますが、その後それほど大きな減少はありません。クラスでは、来年度小学校の特別支援学級（情緒学級）が1クラス増え、通常学級が12，特別支援学級が3で、15学級でスタートする予定です。

うちの方は少人数指導の要望が強く、国の基準によらない、千葉県独自の「弾力的運用」による学級編成を取り入れています。人数がぎりぎりなので厳しいですが、H30年度は2，4，5学年でこれにより学級を開くということです。そして、H31年度はさらにもう1学年その対象が増えることとなります。ただ、国の定数では正規の教員がもらえないので、ここには県の講師がここにあたることとなります。講師は若さがあるいいのですが、細かな指導という点では厳しい状況は否めないということが課題です。

5か年計画の中に評価指標があって、それに基づいて毎年点検・評価を行うことになっています。6項目にわたって書いてありますので、見ていきたいと思えます。

I-1-(2)は学力の問題です。県標準学力検査はまだ結果が出ていませんので、ここでは全国学力・学習状況調査でみています。全国平均を上回っているものが小学校は0，中学校は3つです。

I-1-(3)ALTの活用についてはよくやってくれています。小学校でも全学年で実施しているので、2020年からの英語のスタートについてもすぐにはできると思っています。

I-2-(1)いじめの部分ですが、解消率100%ということです。課題は不登校です。また登校してもなかなか教室には入れない子がいて、先生方、親御さんも苦労しています。今後何らかの形でさらに強化していかなければなりません。

II-1-(1)小中一貫になって、できるだけいろいろなものを合同でやるということで進めてきたのですが、4～5回ということです。

II-2-(2)体験学習、郷育プログラムについては、みんな楽しくやってくれているのかなと思っています。

III-1-(2)学校公開をし、日頃の成果等について見てもらうようお願いしています。中味は今後詰めていきますが、できるだけ多くの人に見てもらい、意見をいただきたいと思っています。

IV-2-(1)ICTの活用については、小学校では1人1台のタブレットを用意しましたので、その活用については力を入れています。子どもたちもだいぶ使えるようになったな

あと感じています。中学校の方がちょっと弱いかなあと感じています。

本町は、家庭教育学級をあまりやっていないです。来年度は社会教育等と連動してやっていくつもりでいます。

ボランティアの実働については、小学校の方には読み聞かせ、英語学習、スクールバスの見守り等だいぶ入ってくれていますので、今後もお願いしていきたいと思っています。

公民館、海洋センターについては、多くの人たちが活用してくれています。

以上概略ですが、データの上での評価を報告いたします。

7ページは学力・学習状況調査の結果についてです。今年は県のレベルもやや低くなっていることが報告されています。

以上の状況を踏まえて、平成30年度をどう進めていくかというのが8ページです。基本的には「学力と人づくり」の2年目の重点課題ということになります。学力については、まずは「わかる、楽しい」授業づくりということで、今年は「授業」に向かっていくつもりでいます。「平均」を上回る指導に向け、がんばっていきます。そして、「学校公開」で多くの人に見ていただく…学力についてはこういう構図で考えています。

人づくりについては、長南が大好きな子を育てていこうということで「郷育」プログラムを進めています。しかし、先生方が本当に忙しく空き時間もない状況なので、カリキュラムを再編成して長南独自のプログラムを、また読み聞かせ等、長南の子どもの心を育てる部分をもう少し強くしていきたいと考えています。

そして、(3)は、特色あるカリキュラムとして具体的やっていきたいことです。①が学習指導の充実。「教科指導員」の工川先生に小中学校の先生方を見てもらいましたが、次年度はさらに充実させていきたいと思っています。②は英語教育の充実です。2020年度から高学年は週2時間、中学年は週1時間の英語、外国語活動が入ってきます。本町ではALTに主で授業を行ってもらい、担任がその中で学習してもらおうという形をしばらくとっていききたいと考えています。特に今年4年生は教科書によらないインストラクターによる活動を行いました。来年度は3年生と4年生で行う予定です。とにかく小学校では英語嫌いをつくってはいけないと思っています。④の「郷育」プログラムは地域に出たの体験学習ですが、袖風や紅花に加え、地域の歴史探訪等の勉強をします。⑤の一貫教育では、小中の連携をもう少し具体的に進めます。1年を経て課題も見えてきましたので、それらをクリアできるように進めていきます。⑥の特別支援教育ですが、朝、教室には入れない子どもが数名いるので、その子どもたちのための体制ができたらいと考えています。本町は小学校3名中学校2名の支援員を配置していますので、十分に活用していきたいです。⑦のアフタースクールは、土曜実施の方向で進めているところです。⑧家政大学との交流では、今年はICTを使った

授業での交流を考えています。

<平野町長>

ここまでで何かありましたらお願いします。

<風戸委員>

いじめについてですが、今のところ無いという報告でしたが、「いじめはある」という前提に立って常に対応をお願いしたいと思います。

<小高教育長>

緊張感を持って厳しい目で見なければならぬと考えています。教師と子どもとの人間関係づくりをベースにした学級づくりを大切にしたいです。

児童生徒数の減少も気になり、他町村で給食費無料化等のアピールもありますが、ぼくは子どもの心の中に「長南は良かった」という思いを残していくことが、教育のできることでと思っています。

<平野町長>

現実を見ると、子育て支援の充実している自治体を比べます。定住の問題では、現実問題としては近隣市町村に子育て支援という観点から遅れをとってはいけないとは考えています。教育の町としてのイメージも大事にしつつ、現実問題としての対応も考えなければならず、両方セットでやっていかなければならないと考えます。

<星野委員>

子どもの頃、町で遊んだ思い出は今でも残っています。でも今の子どもたちは、どこで遊ばせればいいのかと考えたとき、そういう公園等があればいいのかなと思います。

<金木委員>

昔はいたるところにガキ大将がいて、その場が遊び場でしたが、今は難しいところがありますね。

<中村委員>

私は町から依頼されて、子育て交流館などで若いお母さんたちと触れ合う機会があるんですが、世代が変わっただけでは片付けられない、考え方の違いを感じることがあります。子どもたちの家庭環境もずいぶん変わっています。

<平野町長>

生涯学習の方では、家庭教育に関わる取組をやっていますか。

<岩崎課長>

家庭教育というわけではないですが、保護者が子どもたちと一緒に体験できる「わくわく

体験クラブ」などがありますが、参加してくれる保護者の方で交流が図られるようになり、いろいろな面で好影響が出ています。そういうものについては来年度以降も内容を変えながらやっていきたいと思っています。

<平野町長>

家庭に問題があるとわかっているけど、学校からはなかなか言えないですね。

<星野委員>

食育で不登校をゼロにしたということは聞いたことがあります。朝ご飯をきちんと食べる等だけでも結構変わったらしいです。睡眠と食事は、基本的に人間をつくっていくものから。

<中村委員>

やはり「早寝 早起き 朝ご飯」は基本ですね。

<平野町長>

いじめがないということだけでも、子どもたちが利口になってきているのかなあ。

<佐藤主幹>

そのいじめの話ですが、いじめが無いのではなくて、解消率が100%なのです。6月の時点で小学校でも38件のいじめを認知しています。また、県教委としてもいじめは子どもの中に必ずあるものだから、見て見ぬふりをせず、積極的に認知しましょうという方針です。つまり、たくさん認知し、たくさん解消しましょうというスタンスです。ですから長南町では認知したいじめで未だに続いているもの、解決できていないものはない、ということです。

<金木委員>

部活動ですが、社会教育で活躍している指導者の方にお問い合わせすることはできないのでしょうか。

<小高教育長>

以前、中学校の柔道の件で話があったことがありました。ただ、そういう方々は、普段の日に毎日見てもらうことが厳しくて、うまくいっていません。そういう部分を社会体育にできてしまっていて、協議会構想の中で、少しでもできればと思っています。

<小高教育長>

10ページですが、教育の効率化を求めの中で、町教育の課題と連動した学校経営をしてもらうためにということと、教師の多忙化を解消するための一助になればという思いがあります。こういう協議会構想はやっているところが少ないのですが、30年度にその組織化ができればいいなあと思っています。今まで学校に任せていた経営というものを、小中学校の校

長先生が運営委員会というところに図りまして、運営委員会の承諾に基づいて経営をしていくという考え方です。長南町の教育をこういうふうにしようということを学校と一緒に考えるいわゆるシンクタンクの部分です。そして、右の方の「支援本部」というものを学校の具体的な支援をするパートとして組織していきたいと思っています。この支援本部がうまく調整できれば、右側の活動も機能すると思います。3年生が蓮田を見に行く活動がありますが、バスの手配や農家の人の関係、天気の心配等担任がやらなければならない仕事がありますが、それを支援本部のコーディネーターがやれたらいいなと考えています。つまり、学校と外部との間をコーディネーターにやってもらって、担任はコーディネーターに言えば一切やってもらえるような形で機能化を図りたいと考えています。

<平野町長>

今、システム化の話がありましたが、いかがでしょうか。

<小高教育長>

難しいとは思いますが、システムをうまく動かすことは多少時間の中で進んでいけるかなと思っています。とりあえず、スタートはしたいです。このコーディネーターの役割は大きいです。

<平野町長>

「教育の町 長南」として、いろいろな面で外部からの人が応援できるような体制がとればいいですね。人件費等は配慮しますから。先生方には本来の先生方の業務をやっていただいて、その他のことは、やれる人が他にいたのであればお願いしたい。

長南の子どもたちは人間的にもすばらしいとよく言われるので、うれしいですね。そういういい子どもたちがそのまま成長していけるようにしたいですね。

<小高教育長>

たぶんその子たちは大きくなったら「長南 良かったな」と思って、子育てにまたここに来たいなと思ってくれることを願っているのですが。

<星野委員>

横断歩道で停まってくれた車にお礼をできるのは、長南くらいらしいですよ。

<佐藤主幹>

学校で指導していますから。

<中村主幹>

あと、自転車横断するときもきちんと降りて押して渡っていますよね。

<平野町長>

先生の言うことを聞かない子が増えているという中、今、先生方の指導でそのようにして

いると聞いて、うれしくなりましたよ。

私の役割としては、教育がスムーズに行えるような環境をつくってあげるという立場にいるので、財源を投入しなければいけない部分もあるのだから、そういうものはしっかりやっていきたいなと思っています。

では、(1)の教育の推進については終わりにしたいと思います。次のその他ですが、何かありましたらお願いします。

<中村委員>

うちは先生方の大変さを実感していますので、地域の方で先生方を支援してくださる方がいて、先生方の仕事が軽減されれば子どもたちにつける時間も増えていくかもしれないと思います。

<風戸委員>

特にICTの活用ということで、導入したからには現場で十分に活用してほしいと思います。

<平野町長>

これから教育長としっかり議論を重ねながら、委員さんの意見を集約して生かしていきたいと思います。議事の方は終わりましたので、議長の座を降ろさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

<浅生課長>

町長、ありがとうございました。それでは以上をもちまして、本年度の第1回総合教育会議を終了させていただきます。

ありがとうございました。